

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	苫小牧市こども通園センター おおぞら園			
○保護者評価実施期間	令和7年1月28日 ～ 令和7年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	298人	(回答者数)	221人
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日 ～ 令和7年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数)	19人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バラエティーに富んだ指導室、および、教材を設置していること。	市販の教材だけではなく、利用児童に合わせた手作りの教材等を準備している。	個々の児童の発達課題をアセスメントし、より児童にあった支援、保護者支援に努める。
2	職員の年齢層に幅があり、様々な意見交換が可能であること。また、事業所内での多職種連携ができること。	職員をグループで分け互いに講師として研修を実施し、互いに知識を高めあうように努めている。また、他機関連携および、外部機関講師による研修を定期的に実施している。	事例検討会等を開催し、互いの指導内容を共有しながら新しいものを取り入れていく。また、客観的に自分の指導についてみる機会を設ける。
3	通所契約以外の児童に対しても、抱えている発達課題や保護者のニーズに合わせた支援の提供を行っている。	保護者の多様化したニーズに合わせて、定時的な相談や所属園訪問を行うなど、支援の幅を広げている。	地域支援の充実化を図ることで、事業所に通園できない児童に対しての支援を実施するとともに、必要に応じて所属園職員への助言や相談に応じる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通所契約児童に対し、指導数が月2回程度となっている。	契約児童が増加しているため、やむを得ず指導回数制限を行っている。	児童一人一人にあった十分な支援が提供できるよう、指導時間及び体制の見直しを行う。
2	集団指導が実施できていない。	職員の入れ替わりや、コロナ禍での影響による職員の経験不足。	OJT等外部講師による人材育成のための取り組みを充実させる。
3	保護者交流のための場がなく、兄弟支援や家庭支援のための具体的な取り組みが不十分。	研修会の実施、外部機関に対する支援は実施しているが、何よりも指導数の確保を優先としていることから、保護者交流会や兄弟支援の場を設ける余裕がない。	保護者交流会、兄弟支援に対する利用者のニーズを改めてアンケート等で確認し、必要であれば研修会同様、年間行事として実施向け検討する。